

産学と連携・協働する農的資源の保全・管理

—棚田と棚田地域の持続可能性を探る—



2024・8・24 (土) 13:30 - 17:00

会場：早稲田大学 早稲田キャンパス 3号館 301教室 (東京都新宿区西早稲田 1-6-1)

参加費無料 (要申し込み：裏面参照、WEB参加可、会員外参加可)

1999年、農林水産省により棚田保全活動の推進や農業・農村に対する理解を深めることを目的とする「棚田百選」が選定されて以来、棚田地域振興法(2019年)が制定、「棚田百選」を発展させた「つなぐ棚田遺産」(2022年)が認定されるなど、政策的な枠組みが整備されてきた。こうした流れを受け、棚田オーナー制度をはじめとするグリーン・ツーリズム、体験学習や環境学習などのコンテンツとして棚田が注目を集めた一方で、棚田地域やその周辺では過疎化、高齢化が進み、農業生産活動や保全活動の維持、担い手確保の困難さから荒廃の危機に直面する棚田も少なくない。

こうした状況の下、企業によるCSR活動、大学との社会連携協定や学生の学外活動など産学が有する知見や人的資源を棚田地域と連携・協働させ、農的資源や水資源の保全・管理に資する様々な取組が見られる。こうした取組の実態から今後の棚田地域の持続可能性を展望する。

●プログラム

◇ 棚田学会賞受賞者講演 (13:00-13:30) シンポジウムに先立ち行います。ぜひこちらにもご参加ください。

1. シンポジウム開会挨拶 / 山路 永司 (棚田学会会長 東京大学 名誉教授)
2. 本シンポジウムの趣旨説明 / 上野 裕治 (棚田学会研究委員長 元長岡造形大学 教授)
3. 基調講演 ポリバレント化する地域連携のあり方と棚田保全・管理の持続可能性
/ 平見 慎太郎 (棚田学会研究委員 名城大学農学部 准教授)

4. 事例報告

- ① 中山間地域と大学の連携 - デザインからのアプローチ -
/ 境野 広志 (長岡造形大学造形学部 教授)
- ② 若い力で棚田を守る新たな試み
/ 平工 孝義 (一般社団法人ぎふクリーン農業研究センター 理事長)
- ③ 産・学・民・金による湛水事業と棚田の保全
/ 大野 芳範 (公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金 専務理事)

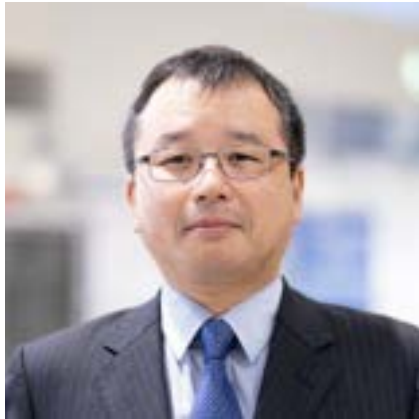
5. 総合討論 パネリスト/基調講演者、事例報告者
司会/小谷あゆみ (棚田学会研究委員 農ジャーナリスト)

6. 総括および閉会挨拶/上野 裕治
(終了後、交流会を予定しています。)

<主催>
棚田学会

<後援>
農林水産省
一般社団法人
地域環境資源センター

講演者、報告者のプロフィール



平児 慎太郎（ひらこ しんたろう） 名城大学農学部 准教授

1972年愛知県生まれ。岐阜大学大学院連合農学研究科博士課程修了。博士（農学）。筑波大学大学院生命環境科学研究科（農林学系）ポスドクの後、独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構（農研機構）中央農業総合研究センター 経営計画部 研究員等を経て、2007年に名城大学農学部 助教、Georg August Universität Göttingen 客員研究員、2011年より現職。日本農業経済学会 常務理事、日本農業経営学会 編集委員等関連学会の理事、編集委員の他、農林水産省東海農政局「東海農政局における農村振興施策に関する交付金評価委員会」委員を歴任。専門は農業経営学、特に地域資源マネジメント、中山間地域農業、農村環境社会。主な業績は Measuring the Structure of German Citizens' Awareness of Landscape Conservation: The Case of Lüneburger Heide (2024)、岐阜県における耕作放棄地の発生要因 - パネル分析による接近 - (2016) 他。



境野 広志（さかいのひろし） 長岡造形大学造形学部 教授

1962年千葉県生まれ。千葉大学大学院工学研究科修了。NTT勤務を経て、1994年に長岡造形大学専任講師として着任、現在に至る。2000年に旧栃尾市比礼地区（現在の長岡市）に転居、中山間地域での生活を開始する。除雪作業や薪作り等の豪雪地帯固有のライフスタイルを満喫する傍ら、2009年頃より近所に居住していた同僚の棚田へのカカシ設置活動に参加し、その後もゼミや地域連携教育など様々な形を通じて活動する。2022年に活動地である棚田が農林水産省「つなぐ棚田遺産」に比礼カカシアート棚田として認定されるとともに、（一社）北陸地域づくり協会より「北陸地域の活性化」に関する研究助成を受ける。専門はプロダクトデザイン、商品企画、感性工学。



平工 孝義（ひらく たかよし） 一般社団法人ぎふクリーン農業研究センター 理事長

1955年岐阜県生まれ。岐阜大学大学院農学研究科修士課程修了。1979年に岐阜県職員となり、主に農政企画や地域農政に関わる業務に携わり、農政部長を歴任。その後2015年に一般社団法人岐阜県農畜産公社 理事長に就任し、農地利用集積や担い手育成等の業務に携わる。2020年より現職に就く傍ら、岐阜県揖斐郡揖斐川町で地域資源活用指導員として飛騨美濃伝統野菜等の振興や岐阜大学の学生と連携、協働する棚田保全活動等に取り組む。2022年より国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学の非常勤講師として、環境リーダーコースを担当する一方、自営の農業者として農業経営に携わり、農産物直売所に出荷している。



大野 芳範（おおの よしのり） 公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金 専務理事

1959年熊本市生まれ。2018年肥後銀行九州エリアブロック統括店長兼福岡支店長を経て、同年4月より当財団勤務。

熊本の地下水の量・質両面の保全を目的に設立された当財団の活動に賛同する個人・団体の顕彰・助成金活動に加え、自らの手で行う実践活動に注力している。

中でも『阿蘇大観の森』では森林62haを購入し15万本を超える植樹を行うことで、地下水涵養林の保全管理に努めている他、『阿蘇水掛の棚田』においても1.98ha（67枚）の耕作放棄地を25年ぶりに再生しながら水田湛水事業を継続している。その他、湧水地の水質検査・清掃活動、阿蘇の草原の維持再生活動、アマモ場再生によるブルーカーボン等の取組も行っている。

〈申し込み〉

参加希望の方は下記URL、右のQRコード、もしくはFAX、郵便にて必要事項を記入し返信して下さい。

<https://forms.gle/kat2Esk918oRjYzA8>

お問い合わせ: tanada.ac@gmail.com

申し込み締切: 8月10日(土)

参加申し込みの個人情報はシンポジウムの連絡以外には使用いたしません。



FAX (042-385-1180)、および郵便 (〒184-0015 東京都小金井市貫井北町1-14-5-101 ふるきやら内棚田学会) で申込みの際は、以下の項目をご連絡下さい。

氏名 メールアドレス 住所 電話番号
会員・非会員 所属 交流会参加希望の有・無